

学生漫才日本一の阪大生コンビ その名は「B国紳士」

《B-Koku Gentlemen》



B国紳士

理学部数学科4年の下井竜太郎さん、外国語学部ロシア語専攻3年の山内優範さんの漫才コンビ。結成3年目。今年3月に開催された「第8回全国大学生お笑い選手権大会～お笑いD-1グランプリ2016」で優勝し、全国の大学生漫才の頂点に立った。コンビ名の由来は英国（えいこく→A国）紳士から。「Aにはひとつ何か足りない。どこか抜けているからB」と笑う大阪大学落語研究部出身の2人は今、真剣にプロの漫才師を目指している。（13ページにインタビュー記事を掲載）



D-1グランプリで頂点に 原点は 落語研究部

「第8回全国大学生お笑い選手権大会 お笑いD-1グランプリ2016」で優勝し、学生漫才日本一の栄冠をつかんだ「B国紳士」。ボケ役が下井竜太郎さん、ツッコミ役が山内優範さん。審査員から「ダントツにうまい」と評された学生離れたテンポのいい漫才の原点は、落語研究部（通称「落研」）だった。

◀「第8回全国大学生お笑い選手権大会 お笑いD-1グランプリ2016」の優勝トロフィーと賞状



落研部室にて。「男留（おとめ）」「都（と）ます」は二人の当時の芸名



◆理学部4年 下井竜太郎さん（ボケ役）

▼当初は「想定外」だったコンビ結成

阪大の落研入部が出会ったきっかけ。高校時代からM-1グランプリに出場するなど漫才好きの山内さんは、落語で話芸を磨こうと入部した。一方、下井さんは、お笑いには好きでも人前に立つのが大の苦手。「自己啓発」のために入部し、そして山内さんが募集した相方に真っ先に手を挙げた。

「話したこともないやつが立候補してきて想定外でした」と山内さん。2013年秋にとりあえずコンビを結成した。ところがコンビを組んでみると、「笑いのツボが同じで、意外に相性が良かった。そして漫才するの



が楽しくて、本気で勝負してみようと思うようになった。学生で1番じゃなかったらプロになんかなれない。D-1グランプリは試金石でした」と山内さんは振り返る。

▼落研での経験を生かした芸風に

落研では地域の寄席で高座に上がって、多くの場数を踏んだ。全くウケなかった高座も芸の糧になっている。下井さんは「最初は赤面したり、滑舌が悪くて囁んだりするとメンタルがやられそうでした。でも、人を笑わせた時の気持ちよさは何物にも代え難いですよ」と語る。間の取り方、立て板に水のしゃべくり、わかりやすいボケなど落研での経験を生かし、B国紳士らしい芸風の研究を続けている。

▼ストリート漫才も

言葉ボケを思いつく山内さんがネタを作り、2人でネタ合わせをして完成させる。ネタは約25本になった。お笑いライブに積極



◆外国語学部3年 山内優範さん（ツッコミ役）

的に出演して腕を磨くほか、京都・三条大橋ではストリート漫才も続けている。舞台とはまた違った緊張感のある練習になる。山内さんは、数学科在籍の下井さんのキャラクターを生かした数学ネタも考えている。「でもね、専門の過ぎて（笑）。これや、というものを早く見つけたいです」

▼阪大芸人として

第17回課外活動総長賞特別賞に輝き、西尾章治郎総長から「阪大芸人」を名乗っていいとお墨付きをもらった。「お笑いの本場、大阪を代表する大阪大学なのに、おもしろイメージがないのは残念。僕たちが阪大芸人として活躍して、阪大の知名度アップにつなげたい」

ただ芸の道は厳しい。「もがきながらも挑み続けたい。そして毎日、舞台上に立って人を元気にしたいです」。2人の漫才道はまだ始まったばかりだ。



◀落研時代の寄席の様子
（左）下井竜太郎さん
（右）山内優範さん